

「日本脳炎(2期)」「2種混合(ジフテリア・破傷風)」について

◎日本脳炎 小学校4年生で通知

…日本脳炎ウイルスにより発生する疾病で、蚊を介して感染します。以前は子どもや高齢者に多くみられた病気です。突然の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、意識障害や麻痺等の神経系の障害を引き起こす病気で、後遺症を残すことや死に至ることもあります。

一般に、日本脳炎ウイルスに感染した場合、およそ1000人に1人が日本脳炎を発症し、発症した方の20～40%が亡くなってしまいますといわれています。また、生存者の45～70%に精神神経障害などの後遺症が残ってしまうといわれています。

ワクチン接種により、日本脳炎の罹患リスクを75～90%減らすことができると報告されています。

ワクチン	ワクチンの種類	対象年齢	標準的な接種年齢	接種回数
日本脳炎第2期	不活化ワクチン	第2期 9歳以上 13歳未満	第2期 9歳から 10歳	1回

◎2種混合（ジフテリア・破傷風） 小学校6年生で通知

～ジフテリアおよび破傷風の免疫を与えるために行います～

…ジフテリアは、ジフテリア菌により発症する病気です。その発生は最後に報告されたのが、1999年であり稀になりましたが、かつては年間8万人以上の患者が発生し、そのうち10%程度が亡くなっていた病気です。主に気道の分泌物によってうつり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、眼球や横隔膜（呼吸に必要な筋肉）などの麻痺、心不全等を来して、重篤になる場合や亡くなる場合があります。

ジフテリアにかかった場合、一般に10%程度の方が亡くなってしまいますといわれています。また、5歳以下や40歳以上の年齢の場合は重くなりやすく、最大で20%の方が亡くなるといわれています。

ワクチン接種により、ジフテリアの罹患リスクを95%程度減らすことができると報告されています。

…破傷風は、破傷風菌により発生し、かかった場合に亡くなる割合が非常に高い病気です。以前は新生児の発生もみられましたが、近年は30歳以上の成人を中心に患者が発生しています。

主に傷口に菌が入り込んで感染を起こし毒素を通して、さまざまな神経に作用します。口が開き難い、顎が疲れるといった症状に始まり、歩行や排尿・排便の障害などを経て、最後には全身の筋肉が固くなって体を弓のように反り返らせたり、息ができなくなったりし、亡くなることもあります。

ワクチン接種により、100%近い方が十分な抗体を獲得すると報告されています。

ワクチン	ワクチンの種類	対象年齢	標準的な接種年齢	接種回数
二種混合（ジフテリア・破傷風）第2期	不活化ワクチン	第2期 11歳以上 13歳未満	第2期 11歳～12歳	1回